

神奈川県作業療法士会ニュース165号 目次

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1 巻頭言 | 8 認知症の作業療法 前編 |
| 2 WFOT Congress 2014横浜 開催まで150日 | 10 各部からの報告 |
| 3 高齢者が生き生き暮らせるまちづくりを目指して | 14 研修会案内 |
| 4 理事会抄録 | 15 求人広告 |
| 5 地域ケアシステムの構築に向けた介護保険制度の動向について | 16 【重要】新定款による「会員資格喪失条件・年会費滞納等」「再入会」について |
| 6 【重要】14年度「総会」から「代議員会」へ移行します | |

巻頭言

今年は日本の作業療法、 飛躍の1年となりますように。

神奈川県作業療法士会副会長 錠内広之



新年あけましておめでとうございます。

さて、表題にありますように今年は、日本の作業療法にとっても神奈川県の作業療法にとっても重要な一年となります。すでにご存じのように世界作業療法士連盟大会（WFOT 2014）が神奈川県で開催され、我が神奈川県作業療法士会の責任も大きなものになっています。具体的には、大会運営全般における役割として各会場の運営を中心的に担うことになります。また、施設見学については東京都士会と協力して実施する事になりますが、神奈川県内の施設見学については主体的に実施します。さらに、開会式直後のウェルカムパーティーや会期中に大磯橋で実施されるコンGRESパーティーについても神奈川県が中心となり企画しています。細かい事を挙げるときりがありませんが、神奈川県作業療法士会の役割と全国から神奈川県作業療法士会に寄せられている期待は大変大きいと言えます。

WFOT 2014だけではなく神奈川県における今年のもう一つの課題として、代議員制度の導入も挙げられます。県士会組織運営においては、これまでに会費の口座引き落としや会員資格の見直し、そして代議員制度導入に伴う定款の改訂なども実施してきました。特に代議員制度導入につきましては2度、

臨時総会を開催して審議してきたのは記憶に新しいところでしょう。

神奈川県作業療法士会は年々会員が増加しています。同時に、会費未納者や所在不明者の会員も残念ながら増加しています。これは、果たして会費納入システムの問題でしょうか。また、神奈川県作業療法士会の活動に魅力がないからなのでしょうか。いずれも“No”だと私は考えます。職能団体（日本作業療法士協会や神奈川県作業療法士会など）の必要性についての理解不足だと考えます。法人格を有する職能団体は、国や地方自治に対してあるいはその制度に対して意見を述べ、参画出来る権利を有していると考えます。これなくして、我々の専門性が高水準に維持され、国民の健康に寄与していることを認められることはないと思っています。つまり、職能団体に協力しない有資格者は自らの資格を放棄している（どうでもいいと思っている）としか思えません。

年明け早々少し反感を買いそうですが、私は本当にそう思っています。我々の作業療法には魅力が“ふんだん”に含まれています。そんな、素晴らしい資格を世界の作業療法に触れ合いながらもう一度考え直せる、そんな1年になればいいなと期待しています。

WFOT Congress 2014横浜 開催まで150日

広報委員会
東 祐二



WFOT Congress 2014横浜、開催まであと150日を切りました。神奈川県士会のみなさまには、学会準備と当日運営に多大なご協力を頂いておりますことに、感謝申し上げます。また、秋には、ラジオ日本の番組「ミネスタ」のコーナーで、神奈川県士会広報部よりWFOT Congress 2014横浜のPRをして頂きました。これについても重ねてお礼申し上げます。

さて、Team Japanの広報委員会では、8月より担当を引き継いで、国内で開催の、国際福祉機器展や全国研修会、各ブロックの学会等に出向いて、会員および一般市民向けにPRを重ねてまいりました。現在は、専用ホームページで参加登録が開始されており、1/15現在の参加登録人数は、海外が約500名 国内が約1100名 コングレスパーティ参加申し込み者は約500名と、順調にエントリーが進んできております。また、スポンサーについても大募集中でありますので、みなさまにもご尽力お願い申し上げます。

さて、国際的な規模の学会を日本に招致することは、日本の多くの学会に求められていることと思います。それは各国の研究者に日本を間近に見てもらうきっかけになり、また日本の研究者に報告の機会が容易に与えられることとなります。

その点では、今回の大会には数多くの演題が集まっておりますので、活発なディスカッションが期待できると思います。WFOT Congress 2014横浜から発信された話題を世界水準で、日本国における、

先進的な取り組みを世界の国々で応用してもらう・・・。

あるいは、技術立国日本における、IT技術や自動車工業技術の応用など、世界に持ち帰って、大きな話題としてもらう。

さらに、世界遺産に登録された、富士山、世界文化遺産に登録された日本食、他の見応えのある観光資源など、日本の魅力をたっぷり観てもらう。

さて、私と言え、これまでに、何度か国際学会に参加したことがあります。つたない英語を駆使して、見知らぬ街をバスや地下鉄を乗り継いで移動、食事、会場でのエントリー、そして、英語での発表とディスカッション。何とも心細い感覚があったのを覚えています。しかし、駅について、ウエルカムボードがあるとチョット嬉しい。会場に入って、案内がスムーズだと、もっと嬉しい。会場案内やディスカッションへの誘導が滞りなく進むと、ほっとします。夜は治安の良い日本で思い思いの時間を過ごす。こうなるとかなり印象に残る大会になると思います。

世界大会、経験少ない、不安、このような参加者も多いと思います。これを、払拭するような安心感のある、日本人の「おもてなしの心」を世界に届けたいものです。

あと150日、出来得る限りの準備をして、当日に臨みましょう。

ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

□□□ 高齢者が生き生き暮らせるまちづくりを目指して □□□ ～ 想像から創造へ ～

さがみりハビリテーション病院 佐藤 隼

2013年4月に開催された第14回神奈川県作業療法学会において、行政機関と連携して取り組んだ、高齢者や認知症者を対象とした地域支援活動の紹介を発表しました。その際に多くの反響をいただいたので改めてこの機会に紹介させていただきます。

□相模原のこれから

相模原市は2010年に人口約72万人の政令指定都市となり、大手企業や商業施設が多く立ち並び、最近ではリニアモーターカーの発着駅ができることも発表され、今後ますます発展していくことが予測されている都市です。また、戦後に人口が急増した代表的な都市でもあり、いわゆる団塊の世代の方が多く在住されています。

『団塊の世代』、このキーワードは言うまでもなく、2025年の超高齢社会に影響するものであり、65歳以上高齢者数は3600万人、うち認知症高齢者数は470万人になると推計されています。相模原市においては高齢化率が現状の21.6%から27.5%に増加すると言われており、地域一体となって健康増進・介護予防に向けた対策が求められています。

□地域におけるリハ病院の在り方

このような社会情勢を踏まえて、当院では、医療・介護・福祉など関連専門職種間の「顔の見える関係」を構築することや「健康」「介護予防」「介護」に関する知識・技術を地域に啓発することを目的とした「さがみはら在宅リハケア連絡会」を発足しました。この連絡会では、多職種合同セミナーや地域資源の紹介、事業所代表者間での意見交換などを開催し、在宅で介護支援が必要な方々を地域全体で支えるための「仕組み」づくりに向けた活動を行ってきました。



『さがみはら在宅リハケア連絡会』
セミナーの様子

□行政との協働事業

これらの活動をもっと幅広く市全体に浸透させたいと考え、活用したのが“相模原市協働事業提案制度”です。この制度は、「相模原をもっと良くしたい!」、「この課題を何とか解決したい!」など、市民が日頃から感じる公的な課題について行政機関に事業提案をし、行政が協働して事業実施を行うことができるものです。これにより、相模原市高齢福祉計画に基づきながら行政担当課（高齢者支援課）とともに、介護予防と家族支援を主体とした地域リハビリテーション事業を計画し、地



『相模原市協働事業』
市民向け介護技術教室の様子

域包括支援センターや自治会の方と直接的に事業を展開することができるようになりました。

本事業では主に、これから介護を行う可能性のある市民を対象とした介護技術教室や個別相談会の開催、介護予防や健康づくりを啓発するパンフレット・DVDの制作を行い、市民に向けて介護に関する知識・心構えを根付かせることを目的としています。

□地域資源が一体となって

この10年間で予測を上回るペースで増加している認知症に対して、厚生労働省は「認知症施策推進5ヶ年計画（オレンジプラン）」を策定し、その対策を喫緊なものとしています。その中で、私たちリハ専門職は、認知症初期集中支援チームや地域ケア会議への配置が示され地域生活支援における役割がこれから期待されています。そこで当院では地域生活支援の一つの手段として、認知症に対する理解を地域住民や関係者に浸透させることも重要であると考え、近隣NPO団体や地域包括支援センター、商工会と協働して“認知症サポーターネットワーク@さがみはら”を設立し、認知症サポーターの育成やアフター研修、同士の情報交換会を開催しています。これにより、地域のひととのつながりを強化して、認知症の方やそのご家族が安心して暮らし続けることができるまちづくりを目指しています。



『認知症サポーターネットワーク
@さがみはら』活動内容

□生活をよくする専門職として

生活の基盤である住まいを取り巻く地域に焦点を当て、作業療法士として描く「高齢者が生き生き暮らせる社会」を関係者と協力して具現化することを継続していきたいと思っています。作業療法士としての専門性が十分に発揮できているかと言えばまだ不十分ではありますが、縁あって出会ったこの地域において「リハビリテーションマインド」を啓発していくことを私の「作業」としていきたいと思っています。



地域包括ケアシステムにおける
「5つの構成要素」
(平成25年3月地域包括ケア研究会
報告書より)

**皆様の活動や
取り組みを
県士会ニュース
で紹介して
みませんか？**

詳細は、メールにてお問い合わせください。
kouhou@kana-ot.jp (担当 小峰)

以下、1から2の条件に該当する場合、掲載を考慮いたします。

1. 一般社団法人神奈川県作業療法士会に所属している会員である。
2. 神奈川県作業療法士会員または神奈川県民にとって、有益である。

依頼者の営利目的の割合が大きいと広報部が判断した場合、または理事会にて掲載が不適切と判断された場合は、掲載を遠慮いただく場合がありますのでご了承下さい。

理事会 報告

平成25年度 第4回 一般社団法人 神奈川県作業療法士会理事会 抄録

日 時：平成25年11月14日（木）19:50～21:50

場 所：横浜YMCA学院専門学校

出席理事：渡邊、錠内、中西、内山、奥原、木村、作田、鈴木（久）、出口、沼田、三浦、吉本、澤口

委任理事：鈴木（孝）、野々垣、福留 出席監事：浅井、清宮

その他：小峰（広報部ニュース班）、酒井（広報部対外班）、名古屋・金山・一志（事務局書記）

●事務局（澤口事務局長）

①渉外関連

- ・「介護予防事業ワーキンググループ」委員推薦依頼（神奈川県保健福祉局福祉部高齢者社会課より）
⇒木村理事（地域リハ部）を推薦。渉外費から交通費を出す
- ・神奈川県精神科病院協会創立50周年記念式典・祝賀会
日時：H25/10/18（金）
場所：横浜ベイホテル東急 出席：澤口事務局長
- ・医療専門職連合会公開セミナー「トリアージを中心とした災害医療
のお話」 日時：H25/10/31（木）18:30～
場所：県民サポートセンター 402号室
講師：済生会横浜市東部病院 救急科・副部長 山崎元靖氏
出席：吉本理事、澤口事務局長

②周知依頼⇒順次、県士会HPに掲載済み

- ・「頸椎損傷者に対するリハビリテーション研修会のご案内」
主催：国立障害者リハビリテーションセンター
日時：H25/12/7（土）・8日（日）場所：伊東市観光会館別館、伊東重度障害者センター
- ・県精連 体験発表会ハートメッセージ
日時：H25/11/22（金）13:00～16:00
場所：藤沢市市民シアター
内容：精神障がい者当事者による体験発表（10名程度）、事業所等の文化活動発表（3施設程度）
参加者：300人（当事者・精神保健福祉関係者・一般）・入場料は無料
- ・「こころの福祉の相談会：横浜会場」（神奈川県精神神経科診療所協会）
日時：H25/12/1（日）11～16時
場所：横浜市健康福祉総合センター内 8階・9階
シンポジウム「精神障害者の就労支援」厚生労働省障害者雇用対策課ほか 13～16時

③庶務関連

- ・医療専門職連合会で新役員名簿の提出及び役員数（代議員数が規定の変更により1名減）の確認があった。
- ・2012年度県士会正会員実態調査アンケート結果の報告資料参照。子育て世代への支援が今後の課題との意見あり。
- ・山梨県障害福祉課「平成27年度障害児リハビリ施設（南都留郡富士河口湖町内）作業療法士1名募集」の問い合わせについて⇒県士会ニュース及びwebサイトの投稿基準を伝えた。

④後援名義使用依頼⇒すべて承認

- ・日本医療マネジメント学会第13回神奈川支部学術集会「考えよう、組織のマネジメントと医療のマネジメント」
日時：H26/3/8（土）10:00～
会場：海老名市文化会館 参加予定数：300～500名
- ・第12回神奈川県介護支援専門員研究大会（神奈川県介護支援専門員協会）
日時：H26/2/16（日）10:00～ 会場：県立保健福祉大
- ・県西地区リハビリテーション連絡協議会「リハビリフェスタ2014」
日時：H26/1/25日（土）10:00～16:00
会場：小田原アリーナ
- ・県民集会「国民医療を守るための神奈川県総決起集会」（神奈川県民医療推進会議：神奈川県医師会）
日時：H25/12/11（水）18:00～
会場：神奈川県総合医療会館7階大講堂

⑤WFOT積立金の使用方法について審議

- ・案（1）参加者に一律配布（2）期間中県士会独自イベントを主催（学術的なものかパーティー）（3）学生ボランティア

アの参加費援助（4）WFOTでは使わず事業費に回す⇒理由が必要（会長）

⇒上記の案については、WFOTの動きをみながら、次回の理事会で事務局が提案し継続審議する。

⑥部員の承認

井戸川 由花（磯子中央病院）／平山 康一（老健リハビリートわかたけ） ⇒承認

⑥代議員制度導入へ向けて日程の確認および代議員総会日の検討

⇒12月中に記事を集め、1月の県士会ニュースで告知し立候補者を募る。選挙が必要であれば2月末に選挙し、3月に決定。その際、結果報告はチラシ対応となる。4月の年度始めに代議員が揃う予定。今後は、代議員による総会になるので、今までのように4月の県学会等にあわせなくても開催は可能。代議員制度を周知する期間をしっかりと設け、総会は5月実施とする案で最終調整へ入ることになった。4.5月の通常活動費は見込みで行って問題ないことを確認する。

⑦議案書作成に向けて

各部・委員会は次回の三役会までに「今年度事業報告ならびに次年度事業計画（案）の提出すること。

●学術部（代読錠内副会長）

- ・各研修会参加状況ならびに今後の予定報告があった。
- ・部員の承認

重田明日香（横浜なみきリハビリテーション病院） ⇒承認

●教育部（奥原理事）

①各研修会参加状況ならびに今後の予定報告があった。

②OT協会生涯教育委員会生涯教育制度推進担当者会議報告

- ・生涯教育制度改定後の状況報告；神奈川県士会ではSIGや職場での事例報告は現職者共通研修の「事例報告」には認めない（認定作業療法士派遣等手続きが煩雑、毎年本テーマを開催しており参加機会はあるため県士会主催の現職者共通研修の「事例報告」のみ認める）。
- ・生涯教育受講履歴登録システムに関して；1月登録開始予定。当面現職者共通研修、現職者選択研修のみ登録、県士会で2名登録責任者を登録済
- ・制度全体の報告；現職者共通研修、選択研修の参加者減少、本県も同様。生涯教育制度推進担当者の役割確認 等

③SIG団体承認申請あり審議 ⇒ 承認

名称：「県央地区リハビリテーション連絡会」（申請資料は回覧）

OT役員 岩瀬充氏（東名厚木病院）。県士会会員の条件を満たしており承認。

●広報部（出口理事）

①対外広報活動について

- ・一般県民向け：ハローヨコハマ「横浜市中区区民祭り」（医療専門職連合会合同ブース出展）
日時：H25/10/13（日） 会場：横浜スタジアム
内容：認知機能検査体験・相談ブース出展
結果：検査体験約80組、パンフレット・ペットボトルオーブナー等各120個以上配布
- ・webサイトへの県士会パンフレット・対外広報班ブログ作成
県士会HPにてUP。今後、老年期作業療法のページ作成にあたり、撮影を行っていく。また、作業療法イベントの告知等をブログで更新していく。

②広報促進グッズの作製：クリアファイル・エコバック等の作製を検討していたが、今年度はニュース発行における不足金額分（約24万円）の補填とするため見送る。

※紙面の都合で一部割愛・詳細は県士会Webへ（文責：澤口）

地域ケアシステムの構築に向けた 介護保険制度の動向について

地域包括ケアシステムとは、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるように、「介護」「医療」「予防」という専門的なサービスと、その前提としての「住まい」と「生活支援・福祉サービス」という5つの構成要素が相互に関係し、連携しながら在宅の生活を支える体制の構築を目指すものとして、定義されています。



社会保障審議会介護保険部会(第53回)資料より一部改編

団塊の世代が75歳以上になる2025年をめどとして地域包括ケアシステムの構築を実現するため、2011（平成23）年の見直しでは、地域包括ケアシステムに係る理念規定が介護保険法に明記されるとともに、新しいサービスや事業が導入されました。

そして、地域包括ケアシステムの構築と介護保険制度の持続可能性の確保の2点を基本的な考え方として、厚生労働省の社会保障審議会介護保険部会による審議が重ねられ、本稿が掲載される頃には、介護保険制度の見直しに関する意見の取りまとめが報告書されている予定です。今回は、この見直し項目についてご紹介いたします。

地域支援事業は、要介護・要支援状態になることを予防するとともに、要介護状態となった場合にも可能な限り地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援するためのサービスを市町村が提供する事業です。そして、この地域支援事業を地域包括ケアの一翼を担うにふさわしい良質で効率的な事業に重点化しつつ再構築するとともに、必要な財源を確保し、充実・強化を図るため、次の6項目の取り組みを市町村が主体的に取り組むことができるよう見直しが検討されています。

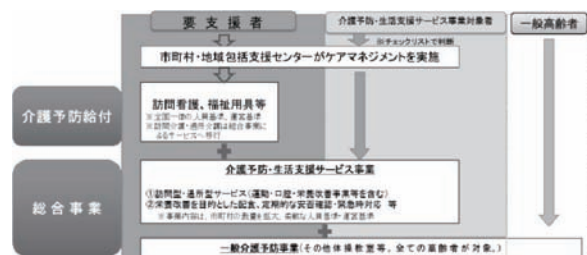
- (1) 在宅医療・介護の連携の推進
- (2) 認知症施策の推進

※認知症施策における認知症初期集中支援チームについては、本誌No.163号をご参照ください。

- (3) 地域ケア会議の推進
- (4) 生活支援サービスの充実・強化
- (5) 介護予防の推進
- (6) 地域包括支援センターの機能強化

そして、地域支援事業の見直しに併せ、要支援1・2の認定を受けている方を対象とした予防給付も見直されることになります。

当初、検討されていた予防給付全てを市町村事業へ移行するという方針は変更され、訪問介護、通所介護のみを地域支援事業とし、要支援者も含めた新しい介護予防・日常生活支援総合事業を平成27年4月から開始して、移行期間を経た平成29年4月までにすべての市町村で開始することとなりそうです。その後、平成29年度末に訪問介護、通所介護は新しい総合事業へ全て移行すると示されています。



社会保障審議会介護保険部会(第53回)資料より一部改編

今回の見直しでは、特に生活機能の低下した高齢者に対しては、「心身機能」「活動」「参加」のそれぞれの要素にバランスよく働きかけ、日常生活の活動を高め、家庭や社会参加を促し、生きがい・役割をもって生活できるような居場所と出番づくりなど、高齢者本人を取り巻く環境へのアプローチが重要であると述べられています。そして、このような効果的なアプローチを実践するため、地域においてリハビリテーション専門職等を活かした自立支援に資する取組を推進すると提言されています。これは、まさに作業療法の視点を生かしたアプローチが求められているということではないでしょうか。

そのような求めに応じるためにも、私たち一人ひとりが自覚を持ち、積極的に地域包括ケアの実現に向けて貢献していこうではありませんか。

(文責：地域リハビリテーション部 金沢)

会員へのお知らせ 重要

14年度「総会」から「代議員会」へ移行します

さて、この度の第2回臨時総会（平成25年11月14日）において新定款が承認されました。定款変更の焦点は「代議員制度の導入」「会員の資格喪失と再入会」「役員選挙」についてでしたが、すべて承認されました。従いまして、本記事では「代議員制度の導入」による、会員の皆様への変更点をお伝えします。

県士会を執行するにあたり、これまでは、総会において正会員が直接出席し（委任状を含む）「各事業計画や予算執行等」の審議を行って参りました。しかし、今後は「代議員」に選任された方で「代議員会」を行い、これまでと同様に「各事業計画や予算執行等」の審議を行う形式に変更となりますのでご留意下さい。以下、Q & Aで留意点をまとめて見ました！

★何故、代議員制度導入？

「急に聞いたよ・・・」「驚いた！」と思いの会員の方もいらっしゃるかもしれません。県士会ではwebサイトや県士会ニュース等を通じて「県士会ニュースN.157(総会から代議員制へ):2012. 9発行」「県士会ニュースNo.162(定款の改訂案:パブコメの募集):2013. 7発行」などでご説明をさせて頂きました。詳細は前記をご参照下さい。

しかし今期に会員になられた方もいらっしゃると思いますので簡単にご説明しますと、県士会運営の効率化が目的です。また会員からの意見を着実に集め、県士会活動に反映させたいという意向もございます。

日本作業療法士協会も「代議員制の導入」をしましたが、結果的には代議員委任状数を含め、98%の代議員会の参加率となったとのこと。これまでも総会には多くの正会員の方にご出席頂き、真摯な意見交換が交わされてきましたが、しかしながら、当県士会の総会参加者は平均すると50名に満たないのが現実です。よって、総会員数に準じてより多くの正会員に県士会活動へ参画をして頂きた

く、より踏み込んだ「代議員制の導入」を決断させて頂きました。

★これまでのように総会に出席し県士会活動に参画したい場合はどうしたらよろしいですか？

まずは「代議員」に立候補して下さい。今後、選挙管理委員会より「代議員選挙の告示」が行われます。

★自分は賛助会員ですが「代議員」に立候補できますか？

「正会員」のみ立候補ができます。

★代議員には何人の方がなれるのですか？

代議員定数は代議員選挙規約により定められています。現在のところ、「正会員数約30人に対して1人の割合とし、県内をAブロック「政令指定都市：横浜市・川崎市・相模原市」Bブロック「その他の地域」の2ブロックに分け、その定数を理事会で定めることになっています。

★同じ職場から何人も立候補してもよろしいですか？

今のところ規約には「ダメ」とは厳密には明記はございませんが・・・代議員定数を「正会員数約30人に対して1人の割合」にしていることや、代議員会においては出席することが今後「義務」となりますのでもし同じ職場から複数選任されたと、そちらに出席しなくてはならず、おそらく通常業務に支障が出るのではないのでしょうか。現時点ではこれ以上、こちらからは申し上げられません。

★まだ私は新人1年目ですが、こんな私でもなれるのでしょうか？

いざ我々は患者さんの前に立てば「1年目」とか「20年目のバリバリです」とかは一切関係ないように、代議員になるのも何の制約もございません。今このニュースを丹念に読んで下さっているその心意

気ひとつで十分です！むしろ若い方にもどしどし参画して頂かないと偏った見方が生じて修正されない恐れがあります。現県士会の半数は若い方たちです。ぜひ、代議員に立候補して下さい！もちろん、先輩方々の参画も必至です。ご指導の程よろしくお願い致します。

★代議員の任期は何年ですか？

2年です。例えば勤務先の変更等で県内移動に関しては任期満了まで代議員資格を有します。

自宅住所も勤務先も県外となり、正会員資格を喪失した場合は欠員とし議決定数総数を減らします。

★代議員会に出席するに辺り、交通費の支弁はありますか？

あります。代議員会（総会）は県士会最高決議機関であり、代議員は「議決権の行使」「議案の審議」「議案の採決」などを正会員かつ職務として行います。代議員になることは県士会としてひとつの業務を担いますので当然ながら支弁されます。

★代議員会はいつ行われるのですか？

以下に今後のスケジュール（検討中）を記します。

正式には選挙管理委員会からの「代議員選挙告示」をご参照下さい。

1 月中 代議員選挙告示
2 月中 代議員立候補締め切り



#もし代議員定数が定足数に満たない場合は、一般公募推薦を行う。



3 月中 代議員の決定。正会員に対し、ニュース等で結果発表

4 月中 第1回代議員会の開催
(もしくは5月中でも可)

では皆さん、代議員になろう！！大勢の方とも知り合えるし県士会活動にも直接参画できてたいへん為になること間違いなし！

(文責：澤口)



認知症の作業療法

～認知症介護指導者の立場から～ 前編

医療法人社団慈泉会 介護老人保健施設ひもろぎの園 作業療法士
石井利幸 先生

―石井先生の現在のお仕事についてお聞かせください。

当施設には、OT 4名、PT 3名、ST 1名のリハビリスタッフが所属しています。私自身は、認知症専門棟を担当しています。他には、スタッフからのケアに関する相談に乗ることが役割になっています。

また、勤務先での業務の他に、福島県の認知症介護指導者として、認知症介護実践研修（実践者研修、実践リーダー研修）の企画や講師、その他認知症関連の多くの研修でも講師を務めています。実践者研修は小規模多機能型施設、グループホームなどの管理者には参加が義務づけられていますし、実践リーダー研修は、老健では認知症専門ケア加算に繋がります。リーダー研修を受けているとケア加算がとれるわけですから、とても重要な研修になってきています。ちなみに、認知症介護実践リーダー研修は、認知症介護に関連する事業所のリーダーの立場にある方を対象としたものです。福島県では、認知症介護指導者の所属する施設での実習を必須としていますので、当施設でも実習を受け入れています。

―「認知症介護指導者」について教えてください。

1999年に策定されたゴールドプラン21（今後5か年間の高齢者保健福祉施策の方向）では、痴呆性高齢者支援対策の推進として、「痴呆介護の質的向上」が推進項目に挙げられ、各都道府県や政令市が痴呆介護実務者研修（現 認知症介護実践研修）を開催することになりました。しかしこの時点では、まだ研修の指導者自体がいませんでしたので、日本国内に3か所設けられた認知症介護研究・研修センター（仙台、東京、大府）が、認知症介護指導者養成研修を始めることになりました。この研修では、各地で研修を企画運営できる指導者を

養成するためのもので、10週間に及ぶものでした。私はこの研修が開始された初年度、平成13年の第2回目の研修に参加しました。他の研修参加者の中には、全国でも著名な方もおられ、そうそうたる顔ぶれでした。私は全国でも最年少（臨床2年目）の参加者でした。

研修後は、第一期生の指導者や県庁の担当者の方等と協力して、福島県として主催する研修のすべてのカリキュラムを立案し、認知症介護指導者としての活動を開始し、現在まで続けています。なお、認知症介護指導者研修には、これまでに全国で約1700名の方が参加しています。

―指導者研修に参加した感想はいかがでしたか？

研修はとても楽しかったです。周りの参加者の中にOTは一人もおらず、認知症に関わる様々な職種の方と一緒に学びました。日本全国で先進的な取り組みをしている方々に出会い、話を聞くことができた経験は、OTだけで認知症を考えるのではなく、他職種と一緒に生活支援をするという考えに役立っています。

―なぜ石井先生は、認知症介護指導者研修に参加されたのでしょうか？

当時福島県では、痴呆介護実務者研修を委託する法人を複数公募しており、その法人から認知症介護指導者養成研修に職員を派遣することとしていました。それを知った勤め先の法人理事長が名乗りを上げ、そして、「石井君勉強好きでしょ」と、勧めてくれたことが参加のきっかけになりました。有難いことに、福島県は私のような実績のない若い人でも応援してくれました。

―研修参加後、作業療法士としての臨床にどのように研修の経験を活かしましたか？

○良いと聞いたことはまず実践してみる

作業療法に関しては、OTになった頃から「作業療法は何であるか」については全く迷いはありませんでした。むしろ、確信を持っていたと言えるかもしれません。大学で矢谷令子先生、福田恵美子先生から、「作業」について学んできたことが影響していると思います。働くようになって、改めて認知症について一から勉強してみると、認知症の方の生活には本当に「作業がない状態」だと思いました。

家庭的な小規模の環境が認知症の方により影響を与えることが知られるようになっていましたので、自分の働く老健にも何か取り入れてみようと思い始めました。それからは、まるで刑務所のように何も無い施設に、色々と馴染みの物を置くようにしました。気軽にお茶飲みができるような環境も作りました。

環境やスタッフの関わりを変えていくことで、認知症の方々のよい反応がみられるようになり、やっぱりいいなという感触を得ました。

○仲間に「認知症ケア」の考えを広める

色々と試して、よかったことを施設内に広めていく。けれども、はじめのうちは「そんな危ない物を置いて、利用者が間違っただけが仕事、と考えている人もいます。業務を確実にこなすことだけが仕事、と考えている人もいます。中で、少しずつ少しずつ、認知症ケアの考え方を職員に広めていきました。

認知症介護実践リーダー研修の実習受け入れも、施



石井利幸 先生

profile

栃木県の国際医療福祉大学卒業後、H12年に現職場である介護老人保健施設ひもろぎの園に入職。現在は、リハビリテーション科長として認知症専門棟を担当し、認知症ケア全体をコーディネートしている。また、認知症介護指導者として福島県認知症介護実践研修、認知症介護指導者養成研修等で講師として活躍中。

設内での勉強会も、認知症ケアの考えを広めることは、とにかくたくさん行ってきました。

―施設で受け入れている認知症介護実践リーダー研修の実習とは、どのようなものなのでしょうか？

研修生は自分の事業所のリーダーの立場にある方で、研修後は自分の職場で認知症ケアの改善に取り組むことが求められます。当施設での実習では、ひもろぎの園の介護の現状を様々な角度から分析し、課題抽出やリーダーとしてどこにアプローチすべきかなどを検討してもらいます。この経験を通して、課題分析・課題解決の能力をトレーニングします。実習の中で、研修生が分析したひもろぎの園のケアの課題を施設職員に伝達してもらったり、具体的なケア改善案を一緒に考えたりもします。研修の受け入れは、その方の学びになると同時に、施設にも役に立つようにとすべきだと常に考えています。そういったことを繰り返しながら、時間をかけて、職場の中の環境改善、意識を変えていきました。

―具体的にはどのようなことが変わってきたと思いますか？

○環境が豊かに

認知症ケアにおいて、まだまだ3大介護が中心なのは仕方がないと思います。施設内もまだまだ殺風景です。でも、部屋の環境やスタッフの対応は以前に比べて、ずいぶん豊かになってきたと思います。例えば、飾っているお花を見た高齢者が、その花をちぎって口にいったとします。以前だったらすぐに制止して、お花をここに飾るのはやめよう、ということになっていたでしょう。でも今は、お花を飾ることを止めたりはしません。万一食べたとしても、下痢をしていないか注意して見ておこうとスタッフ間で申し合わせる程度です。施設の中にもリーダー研修を修了しているスタッフがいますので、彼らと一緒に環境改善に取り組んでいます。スタッフも育ってきて、リーダー的立場の人も増えてきたところです。

―石井先生自身がリーダーとして、実際に取り組みをした事例があれば教えてください。

この写真を見てください。当施設は回廊式になっています。



回廊式の廊下



以前の様子



現在：茶の間として利用

廊下の角の場所を使って、今はお茶を飲んだり、洗い物をしたり、ご飯を食べたりしています。本当に同じ場所？という感じでしょう。このような「暮らしの環境づくり」をスタッフと一緒にしていきました。

また、今から4年くらい前からは、50人位の広い食堂をいくつかに分けて、ユニット的な居場所づくりを始めました。



以前の様子



現在：通称「三波の間」

ここは「通称三波の間」。ユニット風になっています。私はここでお茶を飲んだり、ご飯を食べたり。たまにはみんなでお酒を飲んだりしています。私は認知症の介護においては、一般的に行われているアロマセラピーよりも、当たり前にあるはずのご飯の炊ける匂いや、大好きだったお汁粉の匂いのほうが効果的ではないかと考えています。この場所に集まって、周りの人にご飯をとり分けてもらったり、食器を洗ったりと、当たり前の生活をしています。ただお茶を飲んで遊んでいるようにみえるけれども、実は認知症の人の残存能力に合わせて、かなり緻密に必要なとする認知機能のレベルを調節しています。



ご飯の炊ける匂い～当たり前の生活



みんなでお茶を楽しむ



卵焼きの準備

これは卵焼きを作ることのできる環境設定です。どなたかが作ってくれたら、それを一緒に食べています。

認知機能に特化した特別な課題を用いなくとも、当たり前の「作業」を用いて認知症の方にア

プローチすることは十分可能なのです。
後編に続く (文責：地域リハビリテーション部 河村)



各部からの報告

教育部

○連載！

県士会ウェブサイトから質問ができます！

「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」

「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」は、生涯教育制度関連の情報を毎号少しづつお伝えしています。

～お詫び～

先月号ニュースにて、記事とチラシの内容に日程の食い違いがありました。以下のように訂正してお詫びいたします。混乱させてしまい申し訳ありませんでした。

誤

正

現職者選択研修（発達障害領域）

2014年2月11日

2014年2月23日

現職者選択研修（精神障害領域）

2014年2月23日

2014年2月11日

1. 今年度の生涯教育制度関連の研修会開催情報

*申し込み等詳細は県士会ウェブサイト、これまでの県士会ニュースチラシをご参照ください。

また、締め切り後も受付可能なものもありますのでお問い合わせください。

①現職者選択研修：

・精神障害領域

2014年2月11日（祝・火）ウイリング横浜

・発達障害領域

2014年2月23日（日）ウイリング横浜

②現職者共通研修：

テーマ：「事例検討」・「事例報告」

2014年3月2日（日）ウイリング横浜

生涯教育制度に関して何でもご連絡ください。県士会ウェブサイトからも質問ができます。

教育部 奥原孝幸（昭和大学） 045-985-6500（代）、
kyoiku@kana-ot.jp

ウェブサイト管理委員会

○賛助会員（団体）になりませんか？

よこ太：県士会サイトの右上のロゴだけだよ...

ハマ子：ああ、あの某大学のね。

よこ太：いつも同じだね。他はないのかな？

ハマ子：だって、あのロゴが出るのは、県士会の賛助会員だからよ。

よこ太：じゃええ！

ハマ子：もうみんな忘れたわよ（怒）

よこ太：...実は今はBSでやっている「ちゅらさん」の再放送に、はまっているんだ...（照）

ハマ子：いやいや、だから何？

よこ太：賛助会員ってあの1つだけなの？

ハマ子：うーん、だけじゃないんだけど、少ないのは事実。で、ロゴを作っているのがあの1つだけってことらしいよ。

よこ太：じゃあ、僕も賛助会員になったら、あの部分に「よこ太、参上！」ってロゴを出せるんだ！

ハマ子：個人でも賛助会員にはなれるけど、神奈川県に

縁があるOTRは正会員だし、それにロゴの掲載は団体の賛助会員のみのよ。

よこ太：オーマイガッ！

ハマ子：賛助会員（団体）の年会費は1口1万円です。

県士会サイトへのロゴの掲載は宣伝効果が期待できます。所属先に勧めたり、運営している研究会などでの入会を検討して下さい！詳しくは県士会サイトをご覧ください。

（文責：ウェブサイト管理委員会 作田）

平成25年11月 アクセスランキング

- 1位 作業療法Tips & PDF 20303件
- 2位 講習会・研修会 17064件
- 3位 必見！OTのすご技・アイデア集 14173件
- 4位 求人情報掲載板 10275件
- 5位 月刊よっしーワールド 4595件

平成25年11月 県士会プログラムランキング

- 1位 Hideki Tanaka's Blog 353件
- 2位 ウェブ管的知恵袋 276件
- 3位 KAOT：社会保障対策委員会 206件

更新件数：50件 訪問者延べ数：19627人
Kanaからの手紙発行回数：21回 登録者：179名
Twitter (ID:kaotwebkan)：フォロアー242名

地域リハビリテーション部

○＜研修案内＞

(1)「第3回 神奈川県訪問リハビリテーション地域リーダーミーティング」

日時：2014年2月23日(日)14:00～16:30

場所：横浜ワールドポーターズ

(2)「生活行為向上マネジメント講習会」2月開催予定 《訪問リハ実施施設の掲載》

県士会ウェブサイトに「地域リハの”わ・輪・和”」というコンテンツを掲載しています。

<http://kana-ot.jp/wpm/cbr/>

その中に”訪問作業療法実施施設”をみなさまの協力のもと掲載いたしております。

昨年度から作業療法士の所属施設のみならず、理学療法士や言語聴覚士の所属施設も掲載するように適用範囲を拡大いたしました。

神奈川県民への有益な情報源ですので、未だ掲載していない事業所の方々には是非ともご協力をお願い申し上げます。

《生活行為向上マネジメントの普及活動について》

「生活行為向上マネジメント」を普及するため、各施設・事業所にて説明会を実施いたします。ご希望される場合は詳細をお知らせいたしますので、必要事項を記入のうえ、下記宛にEmailにてご連絡ください。

宛先：chiikireha@kana-ot.jp

地域リハビリテーション部 木村宛

件名：「生活行為向上マネジメント説明会希望」

- 内容：1) 所属施設名
2) 所属施設住所
3) OT部門代表者
4) 窓口担当者
5) 連絡先TEL
6) 連絡先Email
7) 所属OTの人数
8) 希望日時（複数指定）

（文責：地域リハビリテーション部 木村）

広報部

ハローよこはま2013活動報告

10月13日に第38回横浜市中区民祭り「ハローよこはま2013」に県士会広報のブースを出展させていただきました。当日は約17万人の方々が来場し、ブース出展の他、英国女王陛下の近衛軍楽隊の進行や横浜のマスコットの人気投票などが行われるなど大変盛況な催しとなりました。今回、当士会ブースでは県士会パンフレットやオープナーの配布に加え高次脳機能の模擬体験コーナーを設置し、多くの方に作業療法を紹介させていただきました。

た。高次脳機能の模擬体験としては認知機能検査体験を実施し、中高年の方を中心として多くの方に体験していただきました。体験前にはご自身の能力に不安を訴えられていましたが、私たちスタッフも驚くほどの好記録が続々と出て、皆さん安堵されているようでした。中高年の方は認知症や病気について関心が高くリハビリについての質問も多く聞かれ、一般の方の声を直接聞くことができました。今後も作業療法への関心を高めていただけるよう積極的に広報活動を続けていきたいと思います。

（文責：広報部 酒井）



福祉用具委員会

○＜事業のご案内＞

神奈川県相談アドバイザーの村越、沼田、牧山、田畑です。

「福祉用具相談支援システム」ですがこのたび県士会ウェブサイト (<http://kana-ot.jp/>) に、福祉用具相談支援システムのリンク先を掲示しました。より一層ご利用しやすくなりましたのでご活用ください。ちなみに、今回初めて福祉用具相談支援システムについて耳にした方もいらっしゃると思います、①福祉用具相談支援システムとは県士会員の皆様からの質問を神奈川県相談アドバイザーが、Web（インターネット）を通して福祉用具に関する相談に答えるものです。

インターネット検索で「福祉用具相談支援システム」と検索すると出てきます。（URLは<http://www.jaot.info/>です）登録方法の流れは(1)→(2)→(3)です。

(1) ログインID：yokaot パスワード：ototを入力し利用者登録。

(2) 次に、個別のログインIDとパスワードを登録。

（個別のログインIDは協会会員番号となり、パスワードは登録時のEメールアドレスです。）＊日本作業療法士協会会員でなければ利用登録ができませんのでご注意ください。

(3) 相談項目を入力、そして相談開始となります！

患者さんの生活をサポートするために、大きな力を発揮する福祉用具たち。OTにとっては強力な武器の一つです。でも、数ある製品を患者さんの状況に応じて使いこなすのは至難の業ですね・・・「誰かに相談してみたい!」「もっとよい支援を考えたい!」「何かいい製品はないかな?」そんな困ったときは、気軽に福祉用具相談支援システムを利用してみてください！

（文責：田畑雄吉）

研修報告：PT・OT福祉用具スキルアップ研修 基礎編・上級編

神奈川県理学療法士会・当委員会が共催し、基礎編8月4日と9月1日、上級編11月1日と12月15日に開催



しました。研修は、福祉用具導入にあたってのセラピストの役割、ポジショニングや起居・移乗動作、車いすシーティング、トイレ浴室・玄関などの住宅改修、コミュニケーション支援機器まで多岐に渡る内容で、経験豊富な講師の先生と用具を使った実習もあり内容盛りだくさんです。国の方針で腰痛対策に福祉用具を推奨していることや、電動ベッドや電動車いすの事故に関わる報道もあるなか、福祉用具の適切な使用が求められています。OTとして、さまざまなケースに対し適切な福祉用具が選定できるよう知識を高める事が必要になることが考えられます。来年度も開催されるので、福祉用具の知識を高めたい方や、最新の福祉用具の情報を知りたい方は、是非ご参加ください。

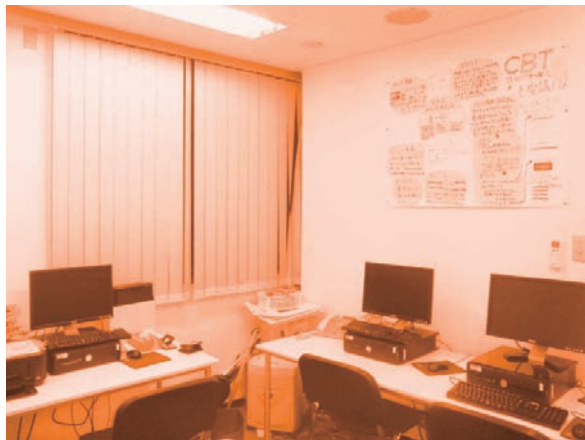
（文責：中村元樹）

福利部

○職場見学会2013 精神分野編・老年期分野編 開催しました！

（精神分野編）

11月28日12：30ーに職場復帰サポートコースを設けているあつぎ診療クリニック・リワークデイケアにて職場見学会を行いました。プログラムはフリーペーパー作りの初回である話し合いの現場へ同行し、利用者さんが主体となり話し合いをして方向性を決めていく様子や今後の活動に必要であると考えられることを挙げていく様子は、職場の会議を思い起こさせるような面もあり、一般的に行われている精神分野の作業療法とはまた違う印象を受けました。プログラム後は有賀先生より、現在の取り組みやリワークの現状などをお話し頂き、その後の質疑応答の時間では質問も多く出ており、活気ある時間を過ごすことができ、参加者の皆様の熱意を感じることができました。



精神領域

（老年期編）

11月27日（水）に『学習療法』を施設全体で行われている老健かまくらに職場見学会に行ってきました。当日は5名の方に参加して頂き、講師の鈴木先生より講義や実際の学習療法の教材を見せて頂いた後、利用者様に行っている場面を見学させて頂きました。実際場面では支援者1名に対して2名の利用者様に対して計算や音読の学習している場面を見学し、導入の仕方や関わり方を講義では感じ取れない部分を感じ取れることができました。学習療法実施中の利用者様同士や支援者との掛け合いの中からの生まれる大きな笑い声が印象的でした。今回は参加者も少ない事もあり活発な意見交換がなされ、「自分達での施設でも学習療法を取り入れてみたい」や「実際の場面を見る事ができて良かった」との声を聞くことができました。

職場見学会は通常の研修会と異なり、臨床場面の見学や講師の先生に気軽に質問・相談ができることが皆さんから好評です。次回も皆さんの興味を引き、日々の臨床に役立つ企画をして参ります。ぜひご参加ください！



老年期領域

2013年第3回職場見学会 身体障害領域編のご案内

今年度より福利部職場見学会班では『特色ある取り組みを行っている病院・施設を見学しよう』をテーマに実施しています。

今回の職場見学会は身体障害領域編といたしまして、医療法人社団三喜会鶴巻温泉病院で3月1日土曜日14:00～17:00に開催させて頂く事となりました。鶴巻温泉病院は「総合リハビリテーション病院」として、回復期リハビリ、神経難病リハビリ、緩和ケア、高齢者医療・看護・介護に取り組んでおられ、スタッフも多く在籍様々な取り組みをされています。その中でも今回は『新人教育への取り組み』について紹介・講演して頂く予定となっています。

新人教育システム構築に苦勞している方、新人への教育方法に思い悩んでいる方、これから新人教育プログラムを立ち上げようと考えている方・・・身近なテーマだけに日々悩みを抱えていらっしゃるOTRの方々も多くいると思います。ぜひこの機会に学び、他施設の方々と交流を広げ、多くの知識・情報を職場に持ちかえって頂ければと思います。多くの参加者をお待ちしております。募集要項の詳細は県士会WEBサイトに掲載しますのでご覧ください。皆様の参加をお待ちしております。

福利部 職場見学会担当班 班長 池嶋孝二

④ ケアの工夫学会

主催：日本通所ケア研究会
 日時：2014年3月2日（日）10：00～16：00
 場所：まなびの館ローズコム
 （広島県福山市霞町1-10-1）
 対象：介護従事者、介護関係者など
 参加費：（一般）6,000円（税・資料代込み）
 ※WEB申込は1,000円割引
 （発表者）3,500円（税・資料代込み）
 定員：200名
 申込み方法：内容の詳細やお申し込みは下記公式ホームページよりご覧ください。
 【公式ホームページ】
http://www.tsuusho.com/care_kufu/

⑤ 運動器系体表解剖セクションセミナー in 新潟

主催：一般社団法人体表解剖学研究会
 日時：平成26年3月1日（土）14：00～19：00
 3月2日（日）9：00～16：00
 場所：新潟医療福祉大学 GA203教室
 参加費：15,000円
 定員：50名（先着順）
 申込み方法：体表解剖学研究会ホームページ
 （<http://surface-anat.com/>）の申し込みフォームよりお申込みください。

⑥ 今こそ学びたい 作業療法士のための物理療法の基礎

主催：神奈川県作業療法士会 学術部
 生涯教育講座 職場管理者研修
 日時：2014年2月1日（土）13:00受付開始
 13：30～16：45
 場所：横浜リハビリテーション専門学校
 対象：神奈川県OT士会員で今年度会費納入済みの方、他都道府県OT士会員等
 参加費：無料 定員：80名
 申込み方法：
 1）E-mail（携帯メール不可）にて神奈川県OT士会事務局研修会担当ken-ot@kana-ot.jpまでお申し込みください。
 2）E-mailは題名を「物理療法2/1受講希望」とし、本文に①受講希望講習会名及び開催日、②氏名、③所属、④都道府県OT士会名、⑤日本作業療法士協会会員の場合は会員番号、⑥連絡先電話番号、⑦返信用E-mailアドレス（携帯メール不可）を必ずご記載ください。

⑦ 臨床で使える肩関節評価の実際～Special test編～

主催：「進」リハの集い
 日時：開催日：2014年2月23日（日）
 時間：受付9時30分より10時00分～16時00分

場所：レンタルスペース町田（町田駅徒歩5分）
 参加費：8500円
 定員：25名
 申込み方法：<http://shin-reha.jimdo.com/>
 上記にアクセスして頂いて、申し込みフォームよりお申し込みをお願い致します。

⑧ 小集団で行う体操・レク・リハ実技セミナー

主催：日本通所ケア研究会
 日時：2014年2月9日（日）9：45～17：00
 場所：ウィリング横浜
 対象：介護に携わる方ならどなたでもご参加いただけます。
 参加費：12,000円（税・資料代込み）
 ※WEBからの申し込みは1,000円割引
 定員：100名
 申込み方法：下記公式ホームページよりお申し込みいただくか、お電話・FAXにてご連絡ください。
 【公式ホームページ】
<http://www.tsuusho.com/rec-reha/>

⑨ 明日から臨床で結果のだせる上肢セミナー

主催：若者のすべて～「進」リハの集い～
 日時：2014/3/21（金・祝日）10時00分～16時00分
 場所：ウィリング横浜オフィスタワー11F多目的室。
 参加費：9000円
 申込み方法：<http://shin-reha.jimdo.com/>
 上記にアクセスして頂き、申し込みフォームよりお申込み下さい。
 申込み締切：H26/3/20

⑩ 関節ファシリテーション（SJF）学会主催「4D関節内運動学」

主催：関節ファシリテーション（SJF）学会関東支部
 日時：平成26年2月22日（土）13:00～17:00
 「SJFの治療技術について」（実技）
 平成26年2月23日（日）10:00～16:00
 「4D関節内運動学」（講義）
 場所：22日（土）横浜市スポーツ医科学センター
 23日（日）加瀬ビル118 2F 新横浜3丁目大ホール
 対象：PT・OT免許所持者
 参加費：13,000円
 （OT協会員10,000円・SJF学会員8,000円～9,000円）
 ※1日のみの参加でも受講費は変わりません。
 定員：100名（先着順です）
 申込み方法：SJF学会関東支部研修会特設サイト
<http://www.sjfkanto.org/special/20144d/>
 から受け付けます。12月上旬より受付開始予定です。

賛 助 会 員 （B会員）

酒井医療株式会社 横浜営業所

横浜市都筑区勝田南2-18-5
 TEL: 045-590-5485

株式会社 柴橋商会

横浜市神奈川区鶴屋町2-11-5 SGビル
 TEL: 045-312-5700

昭和大学保健医療学部

横浜市緑区十日市場町1865
 TEL: 045-985-6500

株式会社 ヒューマン・アイ

東京都中央区入船2丁目9番3号 渥美ビル3F
 TEL: 03-3537-6266

●神奈川県作業療法士会では賛助会員を募集中です。●お問い合わせ・お申込みは事務局（045-663-5997）まで！

求人

作業療法士オープニングスタッフ 募集

平成26年5月、川崎市に初めて認知症疾患専門病院をオープン致します。認知症専門病院として介護や福祉と連携し、早期復帰を目指した全国に誇れる新しい病院と一緒に創っていきませんか。

施設概要 病床数300床（全認知症専門病床）
募集人員 認知症デイ・ケア
給 与 常勤 若干名（オープニングスタッフ）
 当院規定により優遇致します。
勤務時間 昇給年1回 賞与年2回
休 日 8:30～17:30 土曜 8:30～12:30 ※予定
 日・祝・土（午後）、1週40時間内による
 病院指定休、年末年始等
応募方法 電話連絡の上、履歴書（写真貼付）、免許証（写）を下記準備室まで郵送ください。
アクセス 東急田園都市線たまプラーザ駅、溝の口駅、小田急線柿生駅、新百合ヶ丘駅等からバス バス停より徒歩1分
 ※田園都市線あざみ野駅より職員送迎バス予定
担当者 開設準備室事務長 国井 弘 善
 〒216-0013 川崎市宮前区潮見台20-1

かわさき記念病院開設準備室

電話 044 (977) 8877

FAX 044 (977) 0505

E-Mail info@kqh.ne.jp

医療法人花咲会 かわさき記念病院

神奈川県川崎市宮前区潮見台20番1号

求人

むつみの家

募集職種：作業療法士
 OTの提案を取り入れて、車椅子での座りきりからレクが楽しめるようになったり、下肢筋力をつけて、近くの花屋まで散歩が出来るようになる等、OTならではの視点を尊重します。

募集人数：1名
資 格：作業療法士
勤務内容：デイサービスでのリハビリ
勤務時間：9:00～18:00（常勤）9:00～15時（パート時間曜日応相談）
 パート希望の場合は、午前中のみでも構いません。
休 日：日・その他シフトによる休み・年末年始・夏休み
待 遇：社員221,000～280,000円+賞与夏1.5ヵ月、冬2ヵ月、パート時給2,500円
勤 務 地：横浜市南区睦町1-8-3
概 要：デイサービス
応募方法：電話またはメールにてお願いいたします。

連絡先：045-743-6588

担 当：管理課 加藤

メールアドレス：kato@clinic.or.jp

URL：http://www.clinic.or.jp

求人

作業療法士募集

「あなたの生き方に寄り添う看護を！」を理念にしています。訪問リハビリ体制拡充につき、横浜市内4ステーションでスタッフ同時募集！

募集人員：常勤 若干名
待 遇：当法人規定による
 昇給年1回、賞与年2回、社会保険完備、マイカー通勤可、交通費支給、制服貸与
勤務時間：月～金 9:00～17:30
休 日：土・日・祝日・年末年始・夏期休暇
勤 務 地：戸塚区南舞岡・旭区市沢・港南区野庭・泉区弥生台
応募方法：電話連絡の上、履歴書郵送願います。

医療法人敬生会

ともろー訪問看護ステーション 本部

〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡1-23-9

TEL045-823-1976 FAX045-828-1030

E-mail: j_hasegawa@jujidou.or.jp（採用担当）

URL http://www.keiseikai-med.jp/group/houmon/

求人

作業療法士募集

当院は医療と介護の機能を併せ持った長期療養型の病院です。慢性期のリハビリに力をいれて、日々患者様と向かい合っています。生活支援や生活リハビリテーションを行っており、具体的にはセルフケアの援助や余暇活動をしています。

施設概要 療養型病院 医療255床 介護120床
募集人員 1名
給 与 月給242,000円以上※経験等考慮します
勤 務 9:00～17:00
休 日 週休2日制（日曜・祝日他）
 有給・慶弔・育児・介護休暇
待 遇 昇給年1回、賞与年2回、社会保険完備、退職金制度、制服貸与、交通費全額支給、保養施設あり、永年勤続表彰あり（3年・10年）、職員食堂あり（1食200円）、車通勤可
応 募 お気軽に電話連絡ください（総務課迄）

横浜田園都市病院

〒226-0026 横浜市緑区長津田町3031-2

TEL 045-981-2000

<交通> 東急田園都市線・JR横浜線

長津田駅下車 送迎バスにて3分

会員へのお知らせ 重要

新定款による「会員資格喪失条件・年会費滞納等」「再入会」について

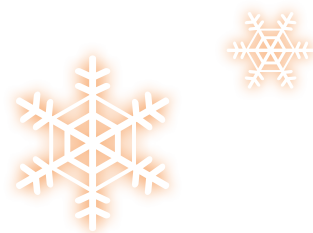
さて、この度の第2回臨時総会（平成25年11月14日）において新定款が承認されました。それに伴い、会員資格喪失条件に第11条7項として「会員が正当な理由なく会費を1年以上滞納したとき」が加わりました。この定款は即日、施行されておりますので、平成26年3月31日までに平成25年度分（前年度以前分の滞納も含まれる）が未納の方は至急お納め下さい。

神奈川県士会では会員の皆様からの年会費と様々な研修会等の収入を柱に県民の医療・保健・福祉の向上を担い、また日々の会員の皆様の臨床を支えるためにこれまでも様々な事業を行って参りました。一方で、会費の滞納においては、様々は事情を垣間見、自発的な納入の励行に努めて参りましたが、これまでのような「人道的でゆるやかな納入励行」では社会的会計帳簿上では「未収金」と手厳しく扱われることがわかり、「未収金」＝「埋蔵金」（もちろんですが、そんな事業運用はしません！）と執られ兼ねないことがわかりました。

県士会が社会的信用を失っては、日々の臨床に勤しまれている皆様にも大変なご迷惑をかけてしまいます。そこで、甚だ恐縮ですが、今後、新定款に則り、年会費の納入期限は1年以内でお願いします。

また第11条7項等による会員資格喪失で退会されたあとの再入会の際には、未納分会費の清算と新規入会時と同様の手続きに加え、理事会による入会承認手続きも新定款施行により必要となりました。このような事項の運用はお互い避けがたいと思っております。ですので、現時点で年会費未納の方には重複し恐縮ですが、未納金の納入をお願い致します。

（文責：澤口）



一般社団法人 **神奈川県作業療法士会ニュース**

< 165号 > 2014年1月発行（年6回発行）

発行責任者 渡邊慎一

編集責任者 出口弦舞

編集担当 小峰一宏（イムス横浜狩場脳神経外科病院）
山岡洸／岩瀬このみ／桜井大和（佐藤病院）

印刷 発送 第一資料印刷株式会社

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301号 TEL/FAX：045-663-5997
月火水木金 10：00～16：00 メールアドレス：jimu@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト <http://kana-ot.jp>

作業療法 神奈川

検索

